



政治専攻「演習Ⅰ・Ⅱ」
第Ⅱ期第1次募集



【目次】

1. 募集について
2. 募集に関する注意事項
3. 選考方法
4. ゼミ内容

➤ 稲垣 浩 先生	4 頁	➤
➤ 小原 薫 先生	5 頁	➤
➤ 菊田 真司 先生	6 頁	➤
➤ 坂本 一登 先生	7 頁	➤
➤ 芝崎 祐典 先生	8 頁	➤
➤ 羅 芝賢 先生	9 頁	➤
➤ 藤嶋 亮 先生	10 頁	➤
➤ 山本 健太郎 先生	11 頁	➤
➤ 上神 貴佳 先生	12 頁	➤

[【目次に戻る】](#)

1. 募集について

【募集スケジュール】

第 1 次 募 集	
応 募 期 間	2025 年 11 月 12 日（水）12 時～11 月 25 日（火）12 時 50 分
選 考 期 間	2025 年 11 月 26 日（水）～12 月 3 日（水）
合 否 発 表	2025 年 12 月 5 日（金）20 時予定 / K-SMAPYⅡにて

※第Ⅱ第2次募集の実施は第Ⅱ期第1次募集の応募状況によって決定します。実施する場合、すべての教員に応募できるとは限りませんので、予めご了承ください。

第 2 次 募 集	
応 募 期 間	2026 年 1 月 5 日（月）12 時～1 月 10 日（土）12 時 50 分
選 考 期 間	2026 年 1 月 13 日（火）～1 月 19 日（月）
合 否 発 表	2026 年 1 月 21 日（水）20 時予定 / K-SMAPYⅡにて

【応募方法】

K-SMAPYⅡ より

※ログイン後、上部バナー「アンケート」より応募してください。

※K-SMAPYⅡからの応募がなく面接を受けるまたは課題提出だけをしているケースがありましたので、必ずK-SMAPYⅡからの応募も行ってください。応募がない場合は無効になります。

2. 募集に関する注意事項

※必ず、別紙「政治専攻「演習」第2期第1次募集について(現1・2年生向け)」および「政治専攻「演習Ⅱ」第2期第1次募集について(現3年生向け)」もよく読んで応募してください。

- (ア) 応募期間に必ず応募してください。応募期間外の実験は認められません。
- (イ) K-SMAPYⅡからの応募がなく、面接を受ける、または課題の提出だけをしているケースがありましたので、必ずK-SMAPYⅡから応募も行ってください。
- (ウ) 担当教員によって選考方法（面接・レポート・テストなど）は異なります。「選考方法」で必ず内容を確認のうえ、応募してください。
- (エ) 毎年ありますが、提出期限を超えたりレポートの提出は認められませんし、面接時間への遅刻・面接の欠席に関する取り次ぎは教務課では行いません。
- (オ) 合格後に、他のゼミへの変更はできません。
- (カ) 各教員の連絡先に関する問い合わせにはお答えできません。
- (キ) ゼミ応募に関する問い合わせ先は以下のとおりです。

【問い合わせ先】

教務課	①9時～12時50分 ②13時50分～20時30分
法学資料室（若木タワー7階）	①9時～17時

※月曜日～金曜日で受け付けます。

※日曜日・祝日は学年暦に準じ、授業実施日に限り開室いたします。

[【目次に戻る】](#)

3. 選考方法

希望する教員の選考方法を確認してください。

例年、レポートの提出期限や面接日時を間違えているケースがありますのでご注意ください。

教員名	募集 対象	選考 方法	提出方法・レポート締切		レポート内容	備考
			面接日時		面接方法	
稲垣 浩	・現2年生 ・現在当該ゼミ履修中の現3年生	リポート	提出方法	メール送付 inagakih@kokugakuin.ac.jp	①最近気になった自治体行政に関する話題 ②本ゼミへの志望動機	(書式)A4用紙(40字×36行) (字数) 題目①500字以上800字以内 題目②300字程度
			締切日時	11月25日(火) 12時50分		
		面接	11月26日(水)11時00分～13時00分		若木タワー8階 0807 研究室	
小原 薫	・現2年生 ・現在当該ゼミ履修中の現3年生	リポート	面接時持参		小原ゼミへの志望理由と、最近関心のある政治、社会の問題	(書式)自由 (字数) 600字程度
		面接	11月28日(金)12：00～12：50		若木タワー8階 0801 研究室	
菊田 真司	・現2年生 ・すべての現3年生	リポート	面接時持参		自己紹介とこの演習を志望した理由	(書式)A4 (字数)1,000字程度
		面接	11月28日(金)12：10～12：40		若木タワー7階 0712 研究室	
坂本 一登	・現2年生 ・現在当該ゼミ履修中の現3年生	リポート	提出方法	メール送付 kazutos@kokugakuin.ac.jp	志望理由 関心を持っている政治的出来事ないし事件	(書式)自由 (字数)1,000字程度
			締切日時	11月26日(水)18：00		
		面接	11月27日(木)16：15～17：00		若木タワー7階 0705 研究室	
芝崎 祐典	・現2年生 ・現在当該ゼミ履修中の現3年生	リポート	面接時持参		(1)ゼミ志望理由 (2)勉強の中で今まで最も関心を持ったこと	(書式)Wordで作成して下さい (字数)800～1,000字
		面接	11月27日(木)18：00～		3310教室	
羅 芝賢	・現2年生 ・現在当該ゼミ履修中の現3年生	リポート	提出方法	メールで送付 j-na@kokugakuin.ac.jp	①これまで読んだ政治・行政に関する本の中で、最も興味深かったものとその理由 ②ゼミ志望理由	(書式)A4・Word (字数)800～1,000字
			締切日時	11月24日(月)23：59		
藤嶋 亮	・現2年生 ・現在当該ゼミ履修中の現3年生	リポート	提出方法	メール送付 rfujishima@kokugakuin.ac.jp	簡単な自己紹介、ゼミの志望理由、関心のある政治・社会問題についてそれぞれ400字程度で	(書式)自由(必ず連絡がつくメールアドレスをレポートに記載してください) (字数)1,200字
			締切日時	11月24日(月)12：50		
		面接	12月2日(火)13：10～16：10		オンラインにて	
山本 健太郎	・現2年生 ・すべての現3年生	リポート	提出方法	メール送付 kenyamamoto@kokugakuin.ac.jp	ゼミを志望する理由	(字数) 800字程度
			締切日時	11月25日(火)12：50		
上神 貴佳	・現在当該ゼミ履修中の現3年生	リポート	提出方法	アンケートで回答	本演習を志望する理由	(字数) 1000字
			締切日時	11月25日(火)12：50		

[【目次に戻る】](#)

4. ゼミ内容

[【目次に戻る】](#)

教員名	稲垣 浩
演習テーマ	行政・地方自治・地域社会の動態分析
演習内容	このゼミは、文献の講読や実地調査などを通じて、行政・地方自治の現状や動態に迫ろうとするものです。2025年度は前期に少子化や関係人口関連の自治体の施策に関する図書を講読し、グループによる自治体への実地調査などを行いました。また、香川県での調査合宿や横須賀市などでのまちあるきなど、「現場」での学びも大切にしています。 2026年度も、前期は全員で行政・地方自治に関する図書や論文を読み、報告者による発表、ゼミ生全員にコメントペーパーの提出、ディスカッション、グループ調査を行います。夏休みから後期にかけては、各自の関心に基づいて研究テーマを設定し、それらについて調査・研究した内容を論文にまとめます。 夏休み中には、自治体等の視察を含めた合宿を行うほか、一年を通じてまちあるきや自治体へのインタビュー調査などを可能な範囲で行う予定です。 フィールドワークや取材など、外部との接触が多くなることが予想されますので、外部の方々には礼儀正しく接することができる学生、またはそれらの能力を高めたいと考える学生を求めます。また、他者とのディスカッションやグループ学習に主体的に参加・協力できる学生を優先します。 課題レポートには、取り上げる自治体行政に関する話題が「なぜ」気になり、それに対してどのように考えたのか、応募者のプライバシーや個人情報を過度に犠牲・露出しない程度で具体的に明記してください（題目①）。また、志望動機を300字程度で記入して下さい（題目②）。
教科書	授業中あるいは授業前に適宜指示する。
参考文献	中野邦彦・本田正美（2021）『地域研究ハンドブック』勁草書房 磯崎・金井・伊藤（2025）『ホーンブック地方自治（新2版）』北樹出版 曾我謙悟（2019）『日本の地方政府』中公新書 辻陽（2019）『日本の地方議会』中公新書 など
備考	上記の参考文献は、基礎的な知識となる行政・地方自治の現状を知るための参考文献です。 面接は、基本的に11月26日（水）の11時00分から13時00分までの時間帯に対面で行いますが、応募者とメールで事前に日程を確認・調整する予定です。そのため、提出するレポートに連絡先となるメールアドレスを必ず記載し、こちらから送付するメールを必ず確認するようにしてください。

[【目次に戻る】](#)

教員名	小原 薫
演習テーマ	現代日本を取り巻く政治と思想について考える
演習内容	今、我々を取り巻く政治、社会の状況は大きな転機を迎えている。安全保障、日米関係、外国人問題も、大きな論点となっている。その中で、我々は何を選択するのか。戦後81年を迎える2026年は、今の日本を取り巻く政治、社会の問題について、その背景の思想を含めて議論をしていく。 前期は、岩波新書を中心に講読し、討論を行う。後期は、それぞれが関心のあるテーマについて調査し、中間発表を行い、最終的にレポートにまとめることを目指す。 レポート作成のために、合宿を行うこともあるので、課外の活動にも関心のある学生の参加を求める。
教科書	指定しない
参考文献	
備考	

[【目次に戻る】](#)

教員名	荏田 真司
演習テーマ	AI と民主主義
演習内容	2022年11月のChatGPTの公開以後、生成AIは急速な発展を遂げつつあり、既に情報収集の重要な手段になると同時に、さまざまな判断の補助として重要なパートナーになっています。 それでは、このAI時代における政治とはどのようなものになるのでしょうか？日本でもAIを政治の場で有効活用する「デジタル民主主義」の動きが始まっていますが。テクノロジーがもたらす未来を悲観的にとらえるか、民主主義をバージョンアップするための重要な手段としてとらえるかで、その評価は大きく分かれています。 この演習では、具体的な「デジタル民主主義」の方法とその背景にある基本的な概念を再検討し、AI時代の民主主義について、広い視野から考えてみたいと思います。 演習は、指定されたテキストを読み、担当者が報告した後で、全員で討論する形で行われます。また、演習参加者には、自分で決めたテーマについての論文を執筆してもらい、論文報告会で報告してもらいます。 選考にあたっては、議論に積極的に参加する意欲のある人を優先します。
教科書	李 舜志、『テクノ専制とコモンへの道 民主主義の未来をひらく多元技術 PLURALITY とは?』、集英社新書、2025年 橘 玲、『テクノ・リバタリアン 世界を変える唯一の思想』、文春新書、2024年、など
参考文献	オードリー・タン、E・グレン・ワイル、『PLURALITY 対立を創造に変える、協働テクノロジーと民主主義の未来』、2025年 ヤニス・バルファキス、『テクノ封建制 デジタル空間の領主たちが私たち農奴を支配する とんでもなく醜くて、不公平な経済の話。』、集英社、2025年、など
備考	・面接日に都合が悪い等の連絡や、演習内容についての質問は、karita@kokugakuin.ac.jp までメールで送ってください。

[【目次に戻る】](#)

教員名	坂本 一登
演習テーマ	戦前の政党と議会政治
演習内容	2024年は、選挙の年であった。1月の台湾総統選挙をはじめとして、韓国、インド、英国、フランス、イランと続き、11月には米国大統領選挙がある。選挙は、各国の政治を大きく変貌させ、新たな政治の動きが始まっている。日本においても、自民党および立憲民主党の新リーダーを選ぶ選挙が続き、新たな政党政治および議会政治が模索されている。こうした状況に鑑み、来年度は、戦前日本の政党政治および議会政治の歴史をふり返し、日本政治の将来を考察することを狙いとする。現代においても、2009年政権交代が実現し、民主党政権が誕生した時、日本における二大政党制の可能性が、しきりに論じられた。それから、15年、二大政党制確立の可能性は遠のいたように見える。それでは、戦前の日本では、約8年間とはいえ、なぜ政党内閣の時代が誕生し、なぜそれが崩壊したのか、その経緯を考察することは、今後の日本の政治を考える示唆を与えてくれるかもしれない。まず昭和戦前期の政党や議会史を概観するところからはじめ、21世紀の政治を念頭におきながら、政党政治の可能性や議会政治とは何かを考えていきたい。 なお、演習は、前期は文献講読、後期は論文作成をおこなう。前期講読における報告と後期の小論文の完成は、単位取得のためには必須である。演習なので、全回出席が原則であり、無断欠席の場合は、除名することがあるので、留意すること。
教科書	勝田龍夫：重臣たちの昭和史上下巻 文春文庫
参考文献	栗屋憲太郎：昭和の政党 岩波現代文庫 筒井清忠：昭和戦前期の政党政治 ちくま新書 小山俊樹：五・一五事件 中公新書 古川隆久：戦時議会 吉川弘文館
備考	面接時間が不都合な場合は、メール（kazutos@kokugakuin.ac.jp）にて相談すること。対応可能です。

[【目次に戻る】](#)

教員名	芝崎 祐典
演習テーマ	国際関係の歴史
演習内容	国際関係について歴史を通じて勉強します。対象とする時期は主に第二次世界大戦後から現代までです。場合によってはそれ以前を扱うこともあります。地域はアメリカやヨーロッパ、日本が中心です。テーマは戦争原因論や、外交・安全保障から社会・文化まで幅広く視野に入れますが、それぞれの年度はそのいずれかに焦点を当てます。 前期は国際関係の歴史に関わる文献を輪読します。割り当て箇所を発表してもらい、それをもとに参加者全員で討議します。読んでもらう課題文献の分量は少なくなく、密度も高いものなので、積極的に勉強したい学生を歓迎します。 後期は参加者各自がテーマを設定し、自らリサーチしてまとめた研究を発表してもらいます。期末にはそれに基づいたゼミ論（研究論文）を提出してもらいます。テーマ設定や研究の進め方、論文の書き方などの方法論については随時指導します。 （＊進め方は参加人数によって適宜調整します。）
教科書	開講時にご案内します。
参考文献	開講時および授業中に適宜ご案内します。
備考	ゼミに応募を希望する学生は、以下のレポートをWordで作成して面接時に持参してください。 (1) ゼミ志望理由、(2) 勉強の中で今まで最も関心を持ったこと（国際関係論や国際関係史に限らず、何の分野でも良い）：この二つを盛り込んで自由に文章を作成してください。

[【目次に戻る】](#)

教員名	羅 芝賢
演習テーマ	現代日本行政
演習内容	2026年度は情報ネットワークと行政組織をテーマとします。 文字、印刷機、電信、インターネットといった情報技術の誕生を、国家が果たした役割を抜きに語ることは難しいでしょう。しかし、国家が新たな情報技術を生み出すという側面がある一方で、新たな技術によって形成された情報ネットワークが行政組織のあり方を規定することもあります。 例えば、19世紀以降に生まれた近代国家は、領土のすみずみにまで情報を伝達するための郵便や電話といったインフラを構築し、それに合わせて税務、警察などの業務を遂行する組織を創設しました。しかし、20世紀末にインターネットという新たな情報技術が登場したときには、その情報ネットワークの中心的な存在になることはできませんでした。 つまり、既存の情報技術に合わせた物理的なインフラと組織ができあがってしまうと、後の時代に新たな情報技術が登場したときには、それを使いこなす主役になることは難しくなるのです。そうだとすれば、生成AIがもたらす社会の大きな変化が予測されている今日において、それは行政組織にどのような影響を及ぼすことになるのでしょうか。 こうした問題意識を踏まえて、2026年度の演習では情報ネットワークと行政組織の関係を歴史的に検討します。前期は、文献輪読を通じて、報告の仕方、コメントの仕方、参考資料検索の仕方などを身につけることを目標とします。後期は、輪読を完了した後、ゼミ論文の完成を目指して研究を行い、論文報告会を開催します。
教科書	ユヴァル・ノア・ハラリ『NEXUS 情報の人類史』 マイケル・マン『ソーシャルパワー』
参考文献	適宜紹介します。
備考	

[【目次に戻る】](#)

教員名	藤嶋 亮
演習テーマ	ヨーロッパ政治の変容
演習内容	近年、EUの危機、難民・移民問題、新型コロナウイルス感染症のパンデミック、そして各国におけるポピュリズムの席巻など、ヨーロッパ政治の危機や変動が語られてきましたが、ロシアのウクライナへの軍事侵攻により、文字通り激動の時期を迎えました。こうした状況だからこそ、どのような性格の危機なのか、実際にどのような変化が生じているのか、じっくりと見定める必要があると考えられます。以上のような問題関心から、ヨーロッパ政治の現在地について、歴史的視点や、日本を含めた他の先進民主主義国との比較を重視しながら、その「変容」を跡づけ・位置づけていきたいと思います。授業の進め方としては、前期はヨーロッパの政治・歴史をテーマとした新書・概説書、後期はヨーロッパ現代政治に関するやや専門的な文献を全員で読み進めます。後期はさらに、参加者が関心を持った個別テーマの報告を行います。また、初回の授業時に、各回の担当班を決定し、第2回目以降、発表と全員が毎回事前に提出するコメントに基づき、内容の確認や検討、討論を行います。取り上げるテキストはいずれも骨太の内容であり、関係するテーマ・領域も多岐にわたりますので、自分なりの関心・問題設定に基づいて、毎回の演習に臨む姿勢が期待されます。
教科書	
参考文献	イワン・クラステフ『アフター・ヨーロッパ』（岩波書店、2018年）松尾秀哉他編『教養としてのヨーロッパ政治』（ミネルヴァ書房、2019年）、フィリップ・テア『東欧の体制転換と新自由主義：1989年以後のヨーロッパ』（みすず書房、2025年）など
備考	

[【目次に戻る】](#)

教員名	山本 健太郎
演習テーマ	Z世代と政治・社会
演習内容	いわゆる「Z世代」の中心に位置する皆さんから見て、政治や社会の課題はどのように映っているのでしょうか。担当教員が専攻する日本政治においては、ソーシャル・メディアの存在感が大きくなるにしたがって、世代による「政治の見え方」が変わっているのではないかと考えられます。他方、これからますますZ世代が社会の中心に躍り出るにつれて、社会の側がZ世代をどうとらえ、どう分析するかということも問題になってきています。 このゼミでは、Z世代にとっての政治・社会のリアリティをゼミ生の皆さんから提示してもらうとともに、少し上の世代から見てZ世代がどのように分析されているかについても検討していきます。つまり、「自分たちはどう考えているか」に加えて、「自分たちは（他者から）どう見えているか」を知ることで、みなさんの自己分析につなげてもらえればと考えています。 具体的なテーマとして想定しているのは下記のような内容です。 ・ Z世代とソーシャルメディアと選挙・政治 ・ 消費者・勤労者としてのZ世代 ・ 少子化の行方とZ世代のリアル 本ゼミでは、最終的に個人で関心を持ったテーマについてのプレゼンテーションをしてもらう予定です。出席は基本的に義務ですので、やむを得ず欠席する場合は事前連絡が必要になります。無断欠席が続く場合は、不可／除籍とすることがあります。 なお志望理由レポートには、①メールアドレスと学籍番号・学年・氏名、②「最も関心を持っている社会問題」を含めておいてください。
教科書	初回のゼミで紹介しますが、下記のものを想定しています。 舟津昌平（2024）『Z世代化する社会：お客様になっていく若者たち』東洋経済新報社。 メアリー・ブリントン（2022）『縛られる日本人：人口減少をもたらす「規範」を打ち破れるか』中公新書。
参考文献	ゼミで適宜紹介します。
備考	面接時間はメールで各自に通知しますが、あらかじめ都合がつかない場合は、下記メールアドレスまでご一報ください。 質問・問い合わせ先：kenyamamoto@kokugakuin.ac.jp

[【目次に戻る】](#)

教員名	上神 貴佳
演習テーマ	歴史としての平成と日本政治
演習内容	平成も約30年をもって、令和という新たな時代を迎えることになった。歴史としての平成一をどのようにとらえればよいのだろうか。とくに昭和との関連で平成の政治や経済、社会の課題を理解することを試みつつ、次の時代を展望してみたい。 近年、平成一を振り返るさまざまな書籍が出版されている。本演習の教科書としては、小熊編（2019年）などを用いることにする。教科書の読破は、受講生に求められる最低限の課題である。複数のテキストを読み比べつつ、本演習のテーマ（歴史としての平成と日本政治）について、自分なりの理解を得られるように、各自が学習を進めてもらいたい。 本演習の進め方については、グループに分かれて、報告班と質問班を交互に担当することを想定している。また、いずれの担当になるかによらず、毎回、参加者全員がレジュメを提出する。演習の最後には、各自が本演習のテーマに沿って、レポートを作成して提出してもらう。
教科書	小熊英二（編）『平成史【完全版】』河出書房新社，2019年。
参考文献	薬師寺克行『現代日本政治史』有斐閣，2014年。 佐藤優・片山杜秀『平成史』小学館，2018年。 など
備考	